

公益財団法人ウェスレー財団
2020年度（2020年4月1日～2021年3月31日）事業報告

(A) 総務事項

1. 理事会・評議員会の開催は以下の通り開催され、審議事項はすべて承認された。

(2020年)

第1回理事会（定例）	5月20日	2019年度事業・決算報告、 理事候補者と評議員選考委員会候補者
第2回理事会（臨時）	6月18日	理事の職務分担
第3回理事会（みなし決議）	8月17日	株)リオ・アセットマネジメントとの 業務委託契約
第4回理事会（みなし決議）	10月26日	2021年度公益活動助成金予算
第5回理事会（みなし決議）	12月12日	5丁目土地の不動産処分の交渉
(2021年)		
第6回理事会（みなし決議）	2月18日	三井不動産レジデンシャル(株)との 契約締結
第7回理事会（定例）	3月4日	2021年度事業計画・予算案
第8回理事会（みなし決議）	3月24日	予算の記載修正

(2020年)

定例評議員会	6月18日	2019年度事業・決算報告
--------	-------	---------------

2. 内閣府に以下の報告を行い、届出を完了した。

- ① 2019年度事業報告等（2019年6月29日）
- ② 2021年度事業計画等（2020年3月30日）

3. 旧宣教師館跡地（南青山5丁目土地）開発は、株式会社リオ・アセットマネジメントにコンサルティング業務を委託し（2020年8月24日契約締結）、競争入札を実施した結果（2020年12月4日）、三井不動産レジデンシャル株式会社が一般定期借地権者として落札した。理事会への説明会（2月12日）および契約内容の承認（2月18日付みなし会議）を経て、2021年2月26日に一般定期借地権設定契約を締結した。2021年5月31日より70年間の借地契約で、前受け地代は毎年70分の1ずつ収入に計上し、その50%以上を公益事業のために用いていく。

4. 経理・総務におけるガバナンス強化と、これからの運用方法検討のため、顧問税理士との会計ミーティングに加え、投資委員会を月一回実施した。井田前業務執行理事に引き継ぎ、大都理事がメンバーに加わった。
5. 事務局
 - ① 本年度採用の2職員のうち1名は、2021年1月31日付、またもう1名の職員は3月31日付で、自己都合により退職した。現職員体制はフルタイム職員4名である。効率的な業務執行のため、翻訳、給与計算などについては外部業務委託の強化を行った。
 - ② 新型コロナウイルス感染症防止対策として「ウェスレー財団オフィスにおける新型コロナウイルス感染防止ガイドライン」を整備し、オフィスにはマスク、消毒薬、体温計、パーテーションなどを備え付けた。同時に、就業規則に基づく「在宅勤務補足規則」を整備し、在宅勤務やZoomによる会議を積極的に導入した。
 - ③ フルタイム職員及び常勤役員は、月1回のスタッフミーティングを持ち、デボーションと相互の連絡調整を行った。
 - ④ メンター制度を採り入れ、職員のメンタルケアに配慮した。
 - ⑤ 財団広報に力を入れるために、ウェスレー財団公式YouTubeチャンネルとオンラインセミナーインタビュー動画を作成し限定公開配信し、SNSを用いた定期的な投稿を始めた。
 - ⑥ ウェスレー財団10周年記念プロジェクトとして、ホームページの新規作成、パンフレットの改訂を行なった。財団紹介ビデオ並びに小冊子制作は、現在進行中である。

(B) 公益活動状況報告

1. ウェスレーセンター管理事業

ビル全体を管理する南青山パークハウス・ウェスレーセンター管理組合の副理事長を井田前業務執行理事より木口総務担当職員が引継ぎ、ビル全体の管理運営を行った。パークハウス・ウェスレーセンター合同の防災・防火訓練はコロナ感染症により中止となった。

コロナ感染症対策として、ウェスレーセンター内の共有部分の消毒作業を清掃業者を通して行なうこととした。また、ウェスレーセンターが10年を迎えたのを機に、設備の見直しを行い、中階段の階段に滑り止めの設置、OAフロアの改修工事、車いす利用者便宜のための入り口自動ドアのスイッチ位置の変更などを行なった。

(1) 事務所賃貸運営

昨年度に引き続き、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）、特定非営利活動法人国連 UNHCR 協会、特定非営利活動法人東京英語いのちの電話（TELL）事務所への低廉な賃貸を行った。UNHCR から返還を受けた 1 階部分（101 号室）については、新規募集の結果、3 月の時点で契約の申込みがあり、契約締結に向けて折衝を開始した。

(2) ゲスト・ルーム運営

ウェスレーセンター 4 階（402/403 号室）を関係者のゲスト・ルームとして運営した。

(3) 会議室運営

昨年度に引き続き、201、204、205 号室を貸会議室として運営した。NPO、公益団体などの利用には低廉な料金を設定し便宜を図っているが、コロナ感染症の影響で、利用は大幅に低下した。

会議室の利用については、利用者の安全を図るため、「ウェスレー財団新型コロナウイルス感染症予防ガイドライン」を作成し、利用定員、換気や清掃などの会議室利用ルールを明確に定め、消毒液、ペーパータオル、体温計などを設置した。

2. 国際プロジェクト事業

2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大が長期化していることから 2020 年当初に計画していた国際プログラム 5 つのうち 4 つのプログラムを実施することが叶わなかった。幸い 1 つのプログラムはオンラインで開催した。また、2020 年度は新たな試みとしてオンラインでの国際相互理解と交流を目的としたセミナーを 4 回実施した。国際、国内プログラムの参加者は、大人、男女などを合わせて合計計 97 名（職員を除く）であった。

(1) サマーキャンプ in アメリカ：Youth Summer Camp in USA 2020 7/17~27（中止）

合同メソジスト教会カリフォルニア教区が主催する高校生キャンプに高校生を派遣することを計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大の収束が夏までに見通せないことから 2020 年度はウェスレー財団からの参加者を派遣することを中止する決定をした。また、合同メソジスト教会カリフォルニア教区のキャンプ主催者側からも中止の連絡があり、双方共に中止となった。

(2) サービス・ワークキャンプ in the Philippines：

Service Work Camp in the Philippines 8/29~9/9（中止）

奉仕活動を通してフィリピン社会や国際問題を学び、また異文化体験の中で国際相互理解を深めることを目的とするキャンプを 8 月末に計画していたが、新型コロナウイルス

ルス感染拡大の収束が夏までに見通せずまた、フィリピンも受け入れ可能な状態ではないことから、夏に予定していたキャンプを中止する決定をした。

(3) アジア女性のためのリーダーシップ研修 (18-30 歳) :

Young Asian Women's Leadership Development in Cambodia 2/2-2/9(中止)

アジアの若いクリスチャン女性対象。ワークショップ、講義、ディスカッションを通して、アジアの多様な文化と歴史、女性に関わる社会問題を学ぶと同時にリーダーシップを学び実践する経験を通して、彼女たちのリーダーシップを育成する研修を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大の収束の見通しが立たないことから中止した。

(4) サービス・ワークキャンプ in Myanmar :

Service Work Camp in Myanmar 3/5-3/16 (中止)

奉仕活動を通してミャンマー社会や国際問題を学び、また異文化体験の中で国際相互理解を深めることを目的とするキャンプを計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大の収束の見通しが立たないことから、計画を中止した。

(5) 後援 女性リーダーシップのためのフォーラム in Korea: (Online で開催)

Women's Leadership Forum in Korea 2020 10/ 23-24

女性リーダーのためのフォーラム：東アジアの女子大学の課題と可能性を考える」は United Board for Christian Higher Education in Asia と Ewha Womans University が共催し、ウェスレー財団、Scranton Women's Leadership Center が後援として、韓国ソウルにある梨花女子大学で、オンラインにより開催された。東アジア 11 カ国の大学のリーダーとアメリカより女子大学協会代表、教育専門家などを交え、女子大学教育の課題と可能性について、意見交換し、11 カ国から 65 名が参加した。(日本からは大阪女学院大学、お茶の水女子大学、活水女子大学、恵泉女学園大学、国際基督教大学、上智大学、津田塾大学、東京女子大学、奈良女子大学、日本女子大学、福岡女子大学の 11 校 14 名が参加)

(6) インターンシップ, 短期人材派遣プログラム : Young Adult Mission Internship, Short-Term Mission Worker Program

国際インターンシップ・プログラム: International Internship

合同メソジスト教会世界宣教部による、若いクリスチャン (20~30 歳) を海外の様々な社会問題と取り組む NGO に派遣し、そこでの活動を通して国際関係、相互理解、リーダーシップを学ぶことを目的としたプログラムである。昨年度よりアジア学院

へ派遣されているインターン、Yu Rong Wang (台湾出身)へのサポートを行うと同時に、このプログラムの広報を兼ねて、オンラインセミナー(Young Generation Global Mission Series Vol.1 11/20)を開催した。

(7) 協働：CHAD (Community Health & Agricultural Development)

ベトナムとラオス

Kennedy O. Cruz をプログラムディレクターとして、ベトナムとラオスでの CHAD のプロジェクトが 2020 年 7 月より 5 年計画で開始された。新型コロナウイルス感染症拡大のため、当初の計画に遅れは出たが、現地チーム作り、オンライントレーニング、政府管轄局 (ラオス) との交渉などが進められ、コミュニティーでのプロジェクトが行われた。

ベトナム

CHAD ディレクターとローカルスタッフ 2 名からなる CHAD プロジェクトチームが作られ、実施計画の話し合いが定期的オンラインによって行われてきた。その後、Kon Vang と Dak Dam、Queng Grai) の村で現地のリーダーたちのトレーニング、計画・方針作りを 168 名 (内 87 名女性) と行なった。3 月末までに達成されたプロジェクトは以下のようなものである。

- トイレ 19 (受益者 25 名)
- 井戸 6 (受益者 34 名)
- 養鶏 25 世帯
- 養豚 7 世帯

ラオス

CHAD チーム (2 人の現地スタッフと宣教師を中心に) が結成され、プログラムディレクターによるオンライントレーニングが定期的実施された。その後、Nalere, Hoikan, Hoitan の 3 つの村で、コミュニティートレーニングと企画、方針の話し合いを行ってきた。10 月には、International non-Government Organization の申請をした。3 月末までに達成されたプロジェクトは以下のようなものである。

- トイレ 2 (受益者 37 名)
- 井戸 15 (受益者 58 名)
- 公共の井戸 2 (受益者 337 名)
- 公共の養魚池 1 (受益者 310 名)

3. 国内プログラム事業

(1) 講演会 ・ワークショップ：Seminars ・Workshops

Young Generation Global Mission Series (オンラインセミナー)

第 1 回 11/20, 第 2 回 12/12、第 3 回 1/23、第 4 回 2/25

参加者計： 33 名 (参加者 26 名、講師 4 名、スタッフ 3 名)

ウェスレー財団主催で Young Generation Global Mission Series というオンラインの連続セミナーを全 4 回実施した。合同メソジスト教会世界宣教局がクリスチャンの若者を対象に実施している Generation Transformation というプログラムの長期宣教プログラムで日本に 2014 年～2021 年まで滞在していた (滞在中) 4 名の若者をゲストスピーカー (Yu Rong Wang, Roberto Junior, Heureuse Kaj, Ray King Oliver) に各国 (台湾、ブラジル、コンゴ民主共和国、フィリピン、アメリカ、香港) の社会課題や日本での経験、奉仕活動等を共有し、国際理解を深める学びを実施した。

(2) 2020 年度学費助成金 オンライン交流会

実施日時：2021 年 3 月 23 日 19:00-21:00

参加者計：18 名 (参加者 16 名、スタッフ 2 名)

2020 年度学費助成金の助成決定者と、ZOOM を用いたオンライン交流会を実施し、助成決定者 19 名 (14 校) のうち 16 名が出席した。交流会では、北海道から長崎まで様々な大学・専門学校等に通う学生らが集い、それぞれのバックグラウンドや現在学んでいる分野、将来の進路などを共有し、交わりの時を持つことができた。また、ウェスレー財団の事業も紹介し、財団の活動について周知させる良い機会となった。参加学生の中には、ウェスレー財団の研修やセミナーに関心を寄せる学生が多数いた。

(3) その他

10月6日～31日の間に過去のプログラム参加者約100名を対象にアンケートを実施した。75名から回答を得た。回答者の77%がオンラインによる何らかのプログラムを希望しており、特に様々な社会課題をテーマにしたオンラインのプログラムを希望していることが判明した。

4. 支援金事業

2020年度支援金事業では、毎年実施している活動支援金に加え、新たに5つの支援事業を実施した。支援金事業の決算総額は35,016,297円となった。

(1) 2020年度活動支援金

2020年度活動支援金では、42団体からの申請があり、2019年12月26日に開催された支援金交付選考委員会にて、26団体への交付が決定した。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響によって活動の中止や活動実施方法の変更等を余儀なくされた団体が多数あり、12団体が支援金を辞退することとなった。支援金交付額は、合計4,932,487円であった。

(2) 新型コロナウイルス感染拡大による特別活動支援金

新型コロナウイルスの感染拡大により国内で実施された緊急救援、ならびに人道支援に取り組む活動に特別活動支援金を交付した。計81団体からの申請があり、2020年4月27日、5月20日、6月1日に実施した選考委員会により、34団体への交付が決定した。支援金交付額は14,548,378円となった。

(3) COVID-19 Emergency Response Grant (Asia)

新型コロナウイルスの感染拡大によりアジア・太平洋地域で生じる緊急救援、ならびに人道支援に取り組む活動に助成金を交付した。ミッションパートナー団体であるScranton Women's Leadership Center in Korea, Global Ministries of the United Methodist Church, United Methodist Womenと協働し、それぞれの団体から集められた助成金から7ヵ国11プロジェクトの支援を実施した。ウェスレー財団からは、Potter's Hand (カンボジア)、Manila Mission (フィリピン)、United Mission to Nepal (ネパール)の3団体に助成金を交付した。当財団からの交付総額は6,388,080円となった。

(¥6,388,080)

(4) マスク寄贈

新型コロナウイルス感染拡大によってマスク不足が深刻な問題となっていた2020年4月に、当財団のミッションパートナーであるAmity Foundation (愛徳基金会/中国基督教協会)の協力でマスク5000枚(197,352円)を入手し、日本キリスト教社会事業

同盟の高齢者施設を運営している法人を中心に寄贈した。

(5) 教育助成金 学費助成 (日本国内)

経済的・社会的支援を必要とする大学生、短大生、認可専門学校生、大学院生で、将来社会に貢献したいという意志を強く持ち、所属校またはミッションパートナー団体から推薦を得ている学生を対象に募集を実施した。計46名からの申請を受け、選考委員で書類選考およびオンライン面接を実施した結果、計14校、19名への助成金交付が決定した。交付総額は8,950,000円となった。

(6) 教育助成金 研修参加費助成

日本に在住する18~40歳の方で、人材育成や教育を目的とした研修(社会問題について学ぶセミナー、リーダーシップトレーニング、教育者向けの研修など)に参加する方を対象に募集を実施した。新型コロナウイルスの感染が広がる中、多くの研修やセミナーがオンラインに移行されていたこともあり、申請は0件だった。

公益財団ウェスレー財団

令和2年度 事業報告の附属明細書

令和2年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条3項に規定する「事業内容を補足する重要な事項」はない。

(以上)